
僕の光

めぐ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の光

【Nコード】

N3641A

【作者名】

めぐ

【あらすじ】

幼い頃に失明になった少年の話。

プロローグ

あの日も雪が降っていた。

僕の最後に見た景色。

僕の心を包みこんでくれる様な優しい光。

もう見ることはできない・・・幼い頃の出来事。

目が覚めると頬が生暖かった。

この夢を見るといつも涙が流れる。

僕の名前は春野紫苑。今年で中学3年生になる。

僕は、8歳の頃から目が見えな

すごく怖い夢を見た後起きると、視界は真っ

暗い。
夢から醒めたはずなのに、

そこから僕の悪夢が始まることになった。大好きだったスポーツ。

もうできなくなってしまっ

た。

幸い、いじめにはあうことはなかったも

の、僕の事情を知らない人たちの視線が刺さるようにいたい。

最初の頃は毎日見えない目から涙を流していた。

でも、ある日から僕は泣くのをやめて

しまった。

あの人のお陰で、僕

は暗闇のなかで立ち上がる事ができたのだ。そう。今は亡き呉羽夏

音のお陰で・・・

出会い

呉羽夏音との出会いは、小学3年生のときだった。

きっかけは彼が転入してきたことだった。

――

「今日からみんなのお友達になる呉羽夏音くんです。みんな仲良くしましょう。」

くれば、

かのん。

いい名前だ。

彼はどんな人なの

だろうか。

「夏音くん一言どうぞ。」

「えっと、これからよろしくお

願いします。」

彼がそういうと、教室から

は拍手が一齐になりだした。

女の子みたいに

綺麗な声だな……。 「紫苑くんっ！ ぼっとしてどうしたの？」

と、言ってきたのは、二条姫香。

僕の幼馴染

みだ。

「え、そうだった？」

僕が間の抜けた返事をする、クスクスと笑いだしてしまった。

「姫ちゃん、笑わないでよう！」

恥ずかしくなったから、途端に声を出してし

まった。

しかも、すぐ情けない。

それを聞いた姫香は今度は爆笑。

「姫香ちゃん、何笑ってるのかな……。？」

……。先生に見つかってし

まった。

「先生すいません」

でも姫ちゃんは素直なのですぐ謝った。 「今度から静かに

しなきゃダメよ？」

「はあい……。」

姫ちゃんの声、心無しかしょんぼりしてる。

「姬ちゃん、ごめんね?」

気になって声をかけた。

「ううん、紫苑くんはわるくないよ。」やっぱり姫香が悲しんでいるところはみたくない。

守ってやりたい。

僕にとつて姫香は

とても大切な人だ……。僕は……。姫香が好きだ。そんなことを思っていると、授業終了のチャイムが鳴った。

もう少し

しこのまましていると、僕のほうに向かって来ている足音が聞こえた。

「君が、春野紫苑くん?」

この声は……。夏音くん?

「うん、そうだよ。どうかしたの?」

「先生が紫苑くんが一番僕の家に近いよって教えてくれたんだ。だから一緒に帰ろう?」

思ってもみなかった。

「

あ、やっぱりダメかな……。?」

「そんなわけないよ。僕も夏音くんの事知りたい

し……」

「ホント!? ありがとう!」

それから僕らは仲良くなっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3641a/>

僕の光

2010年12月14日22時24分発行